

東濃地科学センターの状況

1. 瑞浪超深地層研究所研究坑道掘削工事

- 主立坑の掘削作業（12/9 8:00 現在 500.4m）坑内外設備の維持管理
- 換気立坑の掘削作業（12/9 8:00 現在 500.2m）坑内外設備の維持管理
- 深度 500m の水平坑道の掘削作業（4/21～）
- 瑞浪超深地層研究所からの排水
 - ・排水処理設備：放流を実施中（H23/11 の日平均排水量：689 m³/日）

2. 調査研究

(1) 超深地層研究所計画

〔瑞浪超深地層研究所〕

- ・深度 200m のボーリング横坑（主立坑、換気立坑）及び深度 300m のボーリング横坑（換気立坑）における鉛直ボーリング孔を用いた地下水水圧観測を継続（07MI08, 09・09MI17-1, 18, 19 号孔）
- ・深度 200m、深度 300m 及び深度 400m の水平坑道（予備ステージ）における水平ボーリング孔を用いた地下水水圧・水質観測を継続（07MI07・09MI20・10MI26 号孔）
- ・深度 300m の研究アクセス坑道における水平ボーリング孔を用いた地下水水圧観測を継続（10MI23 号孔）
- ・地表からのボーリング孔を用いた地下水水圧・水質観測を継続（MIZ-1・MSB-1～4・05ME06 号孔）
- ・主立坑、換気立坑の集水リングを用いた地下水水質観測を継続
- ・自然電位測定による地下水流動観測を継続（地上及び深度 300m ステージ）
- ・表層水理観測を継続（研究所用地内 1 地点及び 04ME01 号孔）
- ・アクロス技術の工学技術への応用として、弾性波送信及び観測を継続

〔正馬様用地〕

- ・地表からのボーリング孔を用いた地下水水圧観測を継続（AN-1, 3・MIU-2～4 号孔）
- ・表層水理観測を継続（正馬様用地内 3 地点及び 97MS-01, 02・98MS-03, 04・99MS-05・AI-7, 10 号孔）

(2) 広域地下水流動研究

- ・地表からのボーリング孔を用いた地下水水圧観測を継続（DH-2, 7～9, 11～13, 15 号孔）
- ・河川流量観測を継続（日吉川下流域、柄石川流域）

(3) 地質環境の長期安定性に関する研究

- ・変動地形が明瞭でない活断層、震源断層等に係る調査技術の整備を継続（事例対象：十日町断層帯周辺等）
- ・内陸部の隆起・侵食速度の算出に係る調査技術の整備を継続
- ・古水理地質学的アプローチによる地質環境の変化の予測・評価手法の開発を継続

3. 瑞浪超深地層研究所環境調査

- 流量観測を継続（狭間川 4 地点）
- 水位観測を継続（研究所周辺井戸 10 地点）
- 研究坑道掘削土に関する環境管理測定を継続
- 環境保全協定に基づく排水等の測定を継続

4. 瑞浪超深地層研究所における施設供用等

- ・東濃地震科学研究所への施設供用（重力計による観測、傾斜計を用いた岩盤変位計測等）を継続
- ・産業技術総合研究所との共同研究（深度 300m 研究アクセス坑道における水平ボーリング孔を用いた地下水水圧・水質観測）を継続（09MI21 号孔）
- ・電力中央研究所との共同研究（深度 300m 研究アクセス坑道におけるボーリング孔を用いた地下水水圧観測）を継続（10MI24, 25 号孔）
- ・名古屋大学への施設供用（原子核乾板の保管）を継続（10/21～）

瑞浪超深地層研究所研究坑道掘削工事の状況
(平成 23 年 12 月 9 日現在)

立坑

立坑掘削深度	主立坑	換気立坑
		500.4m
12月16日までの予定	500.4m	500.2m

水平坑道

深度 300m 研究アクセス坑道 掘削進捗	主立坑側から	換気立坑側から (ボーリング横坑)
		95.7m 計測横坑①10.0m 計測横坑③ 3.0m 計測横坑④ 3.0m
12月16日までの予定	—	—

深度 500m 調査研究用 の水平坑道掘削進捗	主立坑側から	換気立坑側から
		予備ステージ 5.0m 調査研究用坑道 (仮称) 5.65m
12月16日までの予定	—	—

その他

その他の作業	主立坑	換気立坑
		坑内外設備等の整備
12月16日までの予定	坑内外設備等の整備	坑内外設備等の整備

